

ハンドボール部

東北学生ハンドボール秋季リーグ
9月18～21日(福島:あづま総合体育館)
男子 5勝0敗 **優勝**(6季連続)
女子 1勝1敗1分 **準優勝**(全日本出場決定)

全日本ハンドボール選手権大会
11月10～14日(北海道:函館市民体育館他)
男子 1回戦 富士大学 27 - 32 中京大学
女子 1回戦 富士大学 25 - 24 中京大学
2回戦 富士大学 25 - 37 茨城大学

硬式野球部

北東北大学野球秋季リーグ戦
8月24日～9月23日の5週(岩手:花巻球場他)
4勝4敗2分 第4位
ベストナイン(外野手)比嘉 泰裕(4年)

北東北大学野球大館トーナメント大会
10月19日～22日(秋田:大館樹海ドーム)
準決勝 富士大学 3 - 2 青森大学
決勝 富士大学 3 - 4 戸部大学
準優勝

自転車部

全日本大学対抗選手権自転車競技大会
8月2日～9月2日(静岡:日本サイクルSC)
チームスプリント 第8位 羽田・朴・関田
1kmタイムトライアル 第5位 朴 敏午(1年)
スプリント 第4位 朴 敏午(1年)
ケイリン 第7位 関田 龍(3年)
ロードレース 第12位 井上 卓(3年)

全日本学生自転車競技新入戦・東日本大会
10月14日(神奈川:平塚競輪場)
1kmタイムトライアル 第3位 羽田 信吾(1年)
ケイリン 第6位 菊池 信治(2年)

陸上競技部

北日本学生陸上競技対校選手権大会
8月11～12日(北海道:円山競技場)
男子 400mハドル 松草 盛人(2年) 第3位
1,500m 二階堂 允(2年) 第4位
女子 1,500m 成田 香菜(3年) **優勝**(5年)
5,000m 成田 香菜(3年) 第3位
成田香菜(1,500m)全日本出場

全日本チャンピオンシップ大会
9月7～9日(千葉県:平塚市民総合公園陸上競技場)
男子 1,500m 林 優人(4年) 第7位
女子 1,500m 成田香菜(3年) 第5位

バスケットボール部

東北学生バスケットボール1次リーグ
8月31日～9月2日(東北学院大学泉体育館)
男子 3勝2敗 2次リーグへ
女子 3勝2敗 2次リーグへ

東北学生バスケットボール2次リーグ
10月12～14日(福島:福島市国体記念体育館)
男子 富士大学 59 - 86 岩手大学
富士大学 97 - 85 仙台大学
富士大学 85 - 101 東北学院大学
第3位
女子 富士大学 65 - 66 東北学院大学
富士大学 66 - 79 山形大学
富士大学 81 - 86 仙台大学
第4位

ホッケー部

全日本学生選手権大会東北・北信越予選会
9月9日(岩手:岩手町ホッケー場)
男子 富士大学 8 - 0 新潟大学
女子 富士大学 10 - 0 新潟大学
男女とも5度目の**全日本出場決定**

全日本学生ホッケー選手権大会
10月31日～11月4日(慶應大学ホッケー場他)
男子 1回戦 富士大学 5 - 2 朝日大学
2回戦 富士大学 2 - 7 立命館大学
ベスト16
女子 2回戦 富士大学 7 - 0 大阪体育大学
3回戦 富士大学 1 - 3 天理大学
ベスト8

サッカー部

天皇杯全日本選手権大会岩手県予選
6月～9月(岩手:盛岡南球技場他)
準決勝 富士大学 2 - 0 新日鉄釜石
決勝 富士大学 0 - 3 FCガンジュ岩手
準優勝

東北社会人サッカーリーグ 2部北戦
9月15日～10月6日(宮城:東北学院球技場他)
富士クラブ2003
6勝5敗3分 第4位

東北地区大学サッカーリーグ
9月～11月(岩手:盛岡南公園球技場他)
5勝2敗0分 第3位

柔道部

全日本体重別選手権大会
10月13～14日(東京:日本武道館)
男子 66kg級 高崎 徹(4年) 1回戦敗退
66kg級 相澤 悠介(4年) 1回戦敗退
73kg級 井内 満仁(2年) 1回戦敗退
90kg級 天保 慶一(3年) 1回戦敗退
90kg級 福岡 朋宏(2年) 1回戦敗退
100kg級 村上 和隆(3年) 1回戦敗退
100kg級 石川 啓示(3年) 1回戦敗退
女子 48kg級 安住 直子(3年) 1回戦敗退
52kg級 佐藤 志麻(2年) 1回戦敗退
63kg級 夏井 美和(3年) 1回戦敗退
70kg級 北岡佳奈子(3年) 1回戦敗退
78kg級 多田 智実(2年) 1回戦敗退

全日本体重別団体優勝大会
11月3～4日(兵庫:尼崎総合体育館)
男子 富士大学 1 - 4 早稲田大学

ボクシング部

北海道地区大学対東北地区大学ボクシング対抗戦
10月6日(北海道:札幌市北区体育館)
バンタム級 元祐 拓耶(4年) 判定勝ち
フェザー級 高橋 勇(2年) 判定負け
ライトウェルター級 橋場 和明(4年) 判定負け
北海道チームとの対戦 2勝5敗

テニス部

岩手県学生新人テニストーナメント大会
11月3～4日(岩手:岩手県立大学TC)
男子 シングルス 谷地 隼人 **優勝**
新屋 広明 **ベスト8**
男子 ダブルス 石田孝啓・梶原真史組 **第3位**
女子 ダブルス 小原結実・池田(盛岡大)組 **優勝**

女子ソフトボール部

全日本大学ソフトボール選手権大会
8月24～27日(京都:福知山市球場)
1回戦 富士大学 1 - 6 大阪国際大学

全日本総合女子ソフトボール選手権大会
9月21～23日(大分:直入総合運動公園)
1回戦 富士大学 5 - 9 株式会社 静甲(静岡県)

北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会
10月31日～11月4日(慶應大学ホッケー場他)
10月13～14日(宮城県:並松運動場)
準決勝 富士大学 5 - 1 仙台大学
決勝 富士大学 0 - 7 東北福祉大学
準優勝

準硬式野球部

東北地区大学仙台リーグ秋季リーグ戦
9月15日～10月6日(宮城:東北学院球場他)
4勝1敗 **準優勝**
敢闘賞 那須川 独志(1年)
ベストナイン(三塁手) 高橋 憲史(2年)
ベストナイン(外野手) 浅田 慶介(3年)
ベストナイン(外野手) 菊池 翔太(2年)

東北地区大学仙台リーグ秋季リーグ戦
10月12日～14日(宮城:鹿島台中央野球場他)
準決勝 富士大学 6 - 4 東北工業大学
決勝 富士大学 1 - 5 仙台大学
準優勝

剣道部

全日本学生剣道優勝大会東北予選
9月23日(宮城:塩竈市体育館)
男子 決勝 富士大学 1 - 2 山形大学
準優勝(全日本出場決定)
女子 準々決勝 富士大学 2 - 3 東北学院大学
ベスト8

全日本学生剣道優勝大会
10月28日(東京:日本武道館)
男子 3回戦 富士大学 0 - 6 国士舘大学
ベスト16

東北学生剣道新入大会
11月4日(岩手:紫陵総合体育館)
男子 決勝 富士大学 2 - 2 東北学院大学
代表戦を制し **優勝**
女子 1回戦 富士大学 0 - 1 東北学院大学

卓球部

全日本大学対抗卓球選手権大会
8月2～5日(兵庫:尼崎市記念公園総合体育館)
女子 ※予選を通過し決勝トーナメントへ
1回戦 富士大学 0 - 3 専修大学

東北学生会会長杯争奪卓球大会
10月13～14日(宮城:若柳総合体育館)
男子 団体 富士大学A **ベスト4**
女子 団体 富士大学A **優勝**(初)
団体 富士大学B **ベスト4**
シングルス 伊藤沙織・兼子杏里 **第3位**

全日本学生卓球選手権大会
10月18～21日(愛知:愛知体育館)
男子ダブルス 千葉貴大・山内大輔組 1回戦敗退
滝川剛史・北村翔組 1回戦敗退
シングルス 山内大輔・伊藤孝耶・北村翔 2回戦敗退
千葉貴大・高好裕己組 2回戦敗退
女子ダブルス 小原陽香・伊藤沙織組 1回戦敗退
佐藤夏奈子・本田郁美組 2回戦敗退
シングルス 本田郁美・小原郁美 1回戦敗退
佐藤夏奈子 4回戦敗退

平成20年度入試案内 ■大学院／経済・経営システム研究科 ■経済学部／経済学科 経営法学科 経営情報学科									
出願期間	AO入試		給費生試験		一般入試			センター入試	
	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期
	(12/4～2/8) 2/1(金)～2/15(金)	(2/18～3/14) 3/3(月)～3/19(水)	1/9(水)～1/25(金) (消印有効)	3/3(月)～3/17(月) (消印有効)	1/9(水)～1/25(金) (消印有効)	2/6(水)～2/22(金) (消印有効)	3/3(月)～3/17(月) (消印有効)	1/9(水)～2/8(金) (消印有効)	2/19(火)～3/21(金) (消印有効)
試験日	2/22(金)(確認面談)	3/26(水)(確認面談)	2/5(火)	3/24(月)	2/5(火)	2/29(金)	3/24(月)	1/19(土)・20(日)	
試験場	本学		本学		本学・仙台・東京				

※AO入試の出願期間の()はAOカード提出期間

『地域の活性化を見る眼』 富士大学市民セミナーを開催

9月12日(水)、第24回目を迎えた伝統の「富士大学花巻市民セミナー」(主催:富士大学附属地域経済文化研究所／花巻市)が本年度も開講し、会場となった花巻市生涯学習都市会館には市民約130人(延べ人数)が足を運び、10月31日までの計6回(毎週水曜日)の講義を熱心に受講した。今回のテーマは「地域の活性化を見る眼」。本学の教員が講師となって行った各講義の内容は次の通り。1. 青木一郎准教授「望ましい政府支出と地方分権の意義」、2. 佐々木顕教授「古代の東北と日本海交流」、古川光彌大教授「高齢化対策のための中心市街地開発」、4. 堀圭介助教「花巻市における起業支援の現状」、5. 影山一男准教授「交流人口の拡大と地域活性化」、6. 中村良則教授「岩手県における地域金融の諸問題」。各講義終了後には受講生と講師との活発な質疑がなされ、地域の活性化に対する参加者の関心の高さが伺われるものとなった。

また、第22回目となる「富士大学北上市民セミナー」(主催:富士大学地域経済文化研究所／北上市教育委員会)が、北上市生涯学習センターを会場に、10月16日(火)から11月27日(火)まで計4回開講され、本学教員の講義に市民が熱心に耳を傾けた。

保健室から

保健室看護師 大山 優子

在学中は、怪我や体調不良もなく過ごし、保健室の存在すら気がつかずに卒業をした学生も多いことでしょう。

保健室は、病気や怪我の対応というまでもなく、体調管理、夢や希望の語り場、そして悩み相談と多岐にわたって利用されています。

親元を離れて生活している学生が多いため、母親と同世代の私から叱られる事もありますが、なぜか年々利用者は増加し、大いに繁盛(?)しています。私が不在でもソファに掛けて待っている学生もいます。保健室のドアはいつも開放しています。気になる事があったら一人で悩まず、時には母親に話を聞いてもらうつもりで相談に来るのも良いのではないのでしょうか？

何時でもどうぞ、保健室へ！



OBから一言 福田 匡宏さん(平成12年卒) ●神奈川県出身●AOBA Business Consulting

香港でコンサルタントとして主に日系企業の手助けをしております。香港はアジアの金融拠点という特性上様々なビジネスが存在し、充実した日々を過ごしております。

現在に至るまでにいろいろな経緯がありますが、転機は、大学卒業後に東京で約1年半就労し、イギリスのバーミンガムビジネススクールに入学したことが大きいと思います。

富士大学在学中に、恩師の前田教授から統計学の知識やM.E.ポーターの理論など高度な内容をご指導いただき、進学を勧められたこともあり、今にして思えば、このことにより英国の大学院の門戸をたたくことを選択したのだと思います。

欧米の大学生は自分で学費を捻出している学びます。社会に出てから必要性を感じて学問の世界に戻ってくるなど大学で習得する知識は、重要であり、将来を決める要因となります。また、海外では日本の長短所を肌で感じ、斬新なものにも巡り会うことができ、私にとって有益な事柄でありました。

人生の中で知っていると知らないとでは公私の双方の場面で差が生まれます。学生の皆様もどんどん知識習得に欲を出して学んで下さい。最後にありますが、貴重な大学生活を充実し楽しく有意義なものとして過ごされることを願っています。

➡アナウンス 広報室のE-mailアドレスを変更しました。スパムメール対策の一つです。読者の皆様、近況などをお知らせください。
富士大学広報誌「フェイス」 ●連絡先は広報室まで E-mail fuji-kou@fuji-u.ac.jp この紙は再生紙を使用しております。

富士大学

あなたへ。地域へ。一歩むき合いに向き合って(FACE to FACEで)富士大の「いま」を伝えたい。
そんな思いを込めて、富士大学広報誌をFACEと名付けました。

広報誌 FUJI UNIV. INFOMATION
2007.12.20発行

Vol.

紫陵祭を終えて

FUJI UNIV. CAMPUS NEWS

キャンパスミーティングin富士大学
大学生と市長懇談会

日中交流の懸け橋として

日本学生訪韓研修団に参加して

研究者活動成果報告

「OBの活躍」青年海外協力隊隊員として
～ドミニカ共和国へ～

FUJI UNIV. CAMPUS TOPICS

就職状況と就職支援

平成19年社会人チーム入り内定者

平成19年度演習発表会

学生フォーラムに参加して
～福祉活動について活発な意見交換～

RECORD FLASH

平成20年度入試案内

『地域の活性化を見る眼』富士大学市民セミナーを開催

保健室から

第7回全国高校生童話大賞 受賞者決定

附属図書館システム更新

OBから一言

Photo: 西田ゼミ情報館前にて

Fuji University Shiryousai 2007 【ありがとう】～素朴で飾り気のない大切なことば～



紫陵祭を終えて

高橋 由紀 (経営法学科1年)

第41回紫陵祭テーマ「ありがとう」が10月13日(土)・14日(日)の2日間にわたって催されました。昨年同様、快晴の中で、本学キャンパス内の模擬店や展示会場は来場された方々で大いに賑わいました。紫陵祭実行委員会のステージ企画も充実し、昨年からの改善などにより注目が高まりました。また、14日のお笑いSpecial Liveでは「クワパタオハラ」「瞬間メタル」が登場し、キャンパス内は爆笑の渦となりました。

私は実行委員として参加し、主に広報担当でしたが、スポンサー協賛などは先輩達がカバーして下さったので、パンフレット制作に専念することができました。しかし、なかなか作業を進めることができず、遅れた仕上がりとなってしまう、来年への教訓となりました。

紫陵祭当日は、運営状況の資料としてデジタルカメラでキャンパスを撮影したり、本部待機など裏方業務も経験しました。カメラ撮影は来場者の気分になり、客観的な視点でたくさんのことを発見することが出来ました。

その中で感じたことは「熟慮断行」の大切さです。意志薄弱では何もすることができないし、誰も動いてはくれない…。自分が熟慮して計画を立て、一度決めたらずら断行するというのが、これからの活動で大切なことだと感じました。

夏休休暇以前から様々な準備を始めてきて、とても充実した日々を過ごしました。さらに、4大学コラボレーション企画で他大学との交流を深めることが出来てすごく良い刺激となりました。学友会に入っていなければ経験できなかったこの貴重な体験を、今、とても幸せに感じています。サポートして下さった皆さんに、今回の紫陵祭テーマどおりに「ありがとう」と伝えたいです。

キャンパスミーティング in 富士大学

大学生と市長懇談会



10月31日、「学生が生き生きと学び、暮らせるまちづくり」をテーマに学生と花巻市の大石満雄市長が意見交換する「キャンパスミーティング」が開かれた。韓国からの留学生2人を含む男女8人の学生から、まちづくりへのアイディアや意見・提言などが発表され、これに答えるように大石市長からまちづくりに対する考え方が示された。

小貫千鶴さん(4年・茨城県出身)は、学生のアンケートから「豊かな自然と伝統行事や偉人が多い一方、交通の便が悪い」など学生にとって魅力が乏しいとする結果を挙げた。

また、留学生の韓基泰さん(4年・韓国出身)は「自然に恵まれ人も優しいが、若者が遊んだり買い物を楽しむ場所が少ない」と指摘し、「自分の住んでいるまちのことを考える人が多くなれば、花巻は発展していくのではないかと話した。この他、学生たちからは「歴史や文化を観光に生かしてほしい」など観光振興や産業活性化に向けた様々なアイディアが出された。

大石市長は、都市型のイメージを持っている学生たちに対して、「理想とする学園都市がつくれれば良いが、その為の課題も多い。参考になる話が多々あり、今後のまちづくりを模索していく中で、学生を交えた検討システムについても構築していきたい。」とコメントし、積極的な姿勢が示された。

日中交流の懸け橋として

崔 肅京 准教授

私は、中国の東北師範大学外国文学部で日本語を学び、卒業後、吉林農業大学の助手になった。そこでの仕事は、通訳と国際交流の仕事であった。中国と日本との国際交流を推進する中で、日本の大学や企業、農業団体を訪問する機会を得ることができ、一度は日本で勉強してみたいという気持ちが強くなった。その後、日本の文部省国費留学生として、岩手大学大学院に留学する機会に恵まれ、地域文化と農業経営学を専攻し、博士号を取得した。

岩手大学大学院終了後、富士大学の非常勤講師を経て、助教授(現在は准教授)となり、中国語、比較文化論、農業経済論の授業を担当している。

日中両国は、同じ漢字文化圏にあり、儒教・仏教思想を共有している。また、仏教の報恩思想と慈悲心は、中国と日本に共通した道徳観と価値観となっている。このような共通点がある日中両国の交流の懸け橋となるのが、私の使命であると考えている。

岩手県には外国人登録者が6,000人おり、その約半数が中国人である。彼らは普段日本の皆様のご指導・ご支援のおかげで様々な困難を乗り越えながら岩手で生活している。この度、地域の皆様との友好交流を促進し、日中両国に貢献することを目的として「岩手県中国人会」が設立され、私は会長という大役を任された。日中両国の友好交流促進のために地道に意欲的に取り組んでいきたいと思う。

日本学生訪韓研修団に参加して

畑中 薫(経営情報学科3年)

私は、10月30日から11月8日までの日韓文化交流基金主催の訪韓研修団に参加する機会を得ました。

韓国の大学生との交流、ホームステイ、博物館、古墳、寺院、刑務所などの見学、朝鮮王朝の王宮、軍事国境線(都羅展望台)、伝統文化の体験など非常に広範な内容の研修が10日間に亘って組まれ、実際に韓国の文化に触れ、多くのことを学び、考えさせられました。この研修を通じて感じたことは、第一に韓国の町の風景は日本に似ている部分が多く、治安も良いので、言葉や食べ物を除けば、とても住みやすいと感じました。第二に、「西大門刑務所」見学で日本の韓国占領時の弾圧支配を知り、目を覆いたくなったことです。

歴史の事実は永遠に消えてなくなることはなく、良く知った上で反省をし、お互いに交流すべきなのではないかと強く思いました。

今回の研修団は、全国から28名という構成でしたが、日本の大学生の代表として韓国を訪問できたことは私にとっても良い刺激となり、大きな財産となりました。今回の研修で私を支えていただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

研究者活動成果報告「技術史から学ぶ情報学」

小山田了三・小山田隆信 著

「情報誌から学ぶ情報学」は1993年に刊行した「情報誌・情報学」の改訂版である。前著の刊行当時はようやくインターネットの商用化が実現し、それまで大学や研究所など少しずつパソコンが一般家庭にも普及しはじめた時期であった。しかし、windows95はまだ登場しておらず、まだまだパソコンは専門知識がなくては使えないものであった。その時からわずか10数年の間に急速に情報技術は進展し、パソコンのみならず、携帯電話やデジタルカメラなど社会のいたるところに情報技術が用いられるようになった。すなわち、情報を学ぶ背景が激変したと言える。それに伴って、情報教育も専門知識を中心とした教育から、ワープロソフトやメールソフトなどコンピュータの使い方を中心とした教育へと変化してきている。しかし、この情報化社会を生きていく以上、プログラミングやネットワークなどコンピュータの専門知識の重要性は以前と変わらないどころかさらに増えていると言える。そこで本書を改定するに当たっては最新の技術についても触れながら、古い技術などもあえて残して理解の手助けとしている。本書が学生諸君の情報技術への関心を高める一助になると思っている。(小山田 隆信教授)

「OBの活躍」青年海外協力隊隊員として～ドミニカ共和国へ～

紺野文孝さん(平成19年卒)福島県出身

本学柔道部OBの紺野文孝さんが海外で柔道指導することになりました。出発前の心境を聞きました。

受験の動機は？
柔道を通じて海外の人達と交流を持つことが夢でした。
また、伊藤 深監督の勧めもあったからです。
現地での具体的な目標は？
柔道を通じた人間教育が求められていて、為、少しでも柔道に興味を持ってもらうことが目標です。

現在の心境は？
不安より期待の方が強く、ワクワクしています。
マラリアに感染されて一人前ですか？

柔道の研修を受けたそうですが？
講道館柔道にある柔・投・固の形、護身術、また、基本動作、受身の指導方法等、柔道に関する全てのことを24日間で勉強させていただきました。柔道漬けの毎日楽しかったですよ。
今後のスケジュールは？
長野駒ヶ根研修所に青年海外協力隊員候補生として語学を中心とした研修・訓練をして参ります。予定どおり進めば今年12月末に出発予定です。

ボランティアスピリットを燃やして頑張れ！紺野隊員

就職状況と就職支援

雇用環境は改善の方向にあり、就職活動に取り組む学生にとっては希望を実現する良き時代が到来している。就職課では、就職率100%を目指して、今年も就職ガイダンスを実施した。1年生には資料「就職 を考えるヒント」を活用してキャリア設計図の作成を行い、将来の進路を見据えて努力事項を見出す取り組みを行った。2年生には「ワーカーとしての資質」というテーマでガイダンスを行い、卒業生(大正製薬勤務)を講師として体験談を聴く機会をもった。講師から、学生の熱心な姿に「我が社で欲しい人材が沢山いる」とお褒めの言葉をいただいた。3年生は就職活動への臨戦態勢に入り、ナビの使い方、エントリーの仕方など就職活動の具体的な取り組み指導を行っている。より高い目標で活動してくれることを願うものである。

また、留学生支援については、平成19年4月、ジェトロ・岩手大学・富士大学・県内国際関係機関などが中心になって「留学生就職支援協議会」を立ち上げた。本年11月、第1回岩手県内在住外国人留学生就職支援フォーラムが盛岡で開催され、企業・関係団体・留学生が多数参加し、盛会であった。

この会議で本学卒業生の趙銀姫さん(平成18年卒・韓国)の活躍ぶりが紹介された。趙さんは、日本人でも難しい秘書検定2級の資格をもち、ホテルのフロント業務、外国人客に対する接客など、かけがえのない戦力になっているとのこと。「日本人以上に敬語をつかい、接客マナーを身につける向上心は、留学生ならではのということかもしれません。」と、人事担当から重みのある言葉を聴いた。国際化時代の今、留学生を採用しようという動きが現実のものとなってきている。(就職部長)



平成19年社会人チーム入り内定者

平成19年10月5日現在 ※()は出身高校名

【硬式野球部】	●野 原 諒 介(沖縄水産)……………室蘭シャークス	【準硬式野球部】	●玄 本 誠 治(専修大学北上)…BCリーグ富山サンダーバース
	●比 嘉 泰 裕(沖縄水産)……………高松アークバリア	【バスケットボール部】	●千 田 愛(秋田商業)……………秋田銀行
	●植 松 俊 樹(一関学院)……………フェズント岩手	【ホッケー部】	●山 崎 幸 子(沼宮内)……………南都銀行
	●河 野 敬次郎(浦和学院)……………オール江刺	【ソフトボール部】	●佐々木 睦(埼玉栄)……………大鵬薬品工業株式会社
	●八重樫 真 也(専修大学北上)……………オール江刺	【サッカー部】	●高 内 良 樹(東海大山形)……………グルージャ盛岡

平成19年度 演習発表会

平成19年11月23日、本年度の教養演習発表会(1年生)、専門演習発表会(2～4年生)が開催され、発表はそれぞれ3会場で行われた。

教養演習の研究テーマは、社会問題、郷土の特性、文化比較、メンタルトレーニング、福祉活動、障害教育など多岐に及び、発表では、文献研究や現地調査に基づいた写真や図表を提示し、コンピュータを活用したプレゼンテーションに取り組んでいた。専門演習の研究テーマは、「銀行の環境融資」など地球温暖化問題に関する経済的な視点から論じられたものや、判例分析から法律問題を論ずるもの、女性の労働問題、IT弱者問題などの学術的発表があった。



学生フォーラムに参加して ～福祉活動について活発な意見交換～ 日本福祉工学会理事 石田 豊

11月23日～25日、秋田県立大学で日本福祉工学会第11回学術講演会(会長大藤児義木更津工専教授)が開催され、学生フォーラムや57件の研究発表などが行われた。参加者は大学の研究者等約140名。富士大学からは小山田学長をはじめ教員10名学生16名が参加し、福祉をゼミテーマとする石田豊・高橋榮幸2クラスは学外授業として出席した。

学生フォーラムでは、富士大学、秋田県立大学、中京大学の学生が地域の福祉活動の実態や活動充実の工夫などについて意見を交換し、活発なディスカッションを展開した。参加者の一人、清水みゆきさん(4年、金子賢一ゼミ、学生会員)は、「授業などで地域に出かけ、福祉分野のボランティア活動を行っている。このような体験は計画的にできるが、日常的に身の周りにある小さな福祉のニーズに対応していくことこそ大事である。」と、学生一人一人の福祉に対する気持ちの有り様を指摘し、「福祉活動はふれあうこと。ふれあいは心と心の通い合い。学生自身がその機会をつくっていかなければならない。」と行動力の必要を訴えて参加学生の共感を呼んだ。

学生の学術研究に対する関心と積極的なディスカッションに拍手をおくりたい。

